



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

うらかわ日赤だより

病院ホームページはこちら <http://www.urakawa.jrc.or.jp/>

No.06-6

令和6年6月22日発行
発行：浦河赤十字病院
〒057-0007
浦河町東町ちのみ1丁目2-1
電話：0146-22-5111
FAX：0146-22-0337

浦河赤十字看護専門学校の開校について

本校は、今年度で35回目の入学生を迎え、令和5年度末では、およそ800名の卒業生を送り出している長い歴史を持った学校です。これまで、私たちは、北海道内のみならず、日本国内にも優秀な人材を輩出してまいりました。赤十字の理念を基調とした、心豊かな赤十字看護師として広く社会に貢献できる、自立した実践力と思いやりの深い看護師を育てることに、教職員一丸となって取り組んでまいりました。

一方、医療をとりまく情勢は大きく変化しており、看護の高度化・専門化が求められ、4年制大学の看護学科の新設が増える中、近年は入学生数の減少が続いており、学校存続のため様々な方策を講じてまいりました。検討を重ねた結果、大変残念ではありますが、**令和10年3月末日をもって、浦河赤十字看護専門学校を閉校**することといたしました。これに伴い、**令和7年度の入学生をもって学生募集を停止**いたします。

令和8年度に向け、本校の受験を考えておられた皆さまには大変申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。また、在校生には、これまでどおり授業や実習を進め、最後まで当校の教育理念を貫き、浦河赤十字看護専門学校の卒業生として、しっかりと社会へ送り出していく所存です。

これまで本校の運営にご理解とご支援を賜りました皆さまには深く感謝申し上げます。

つきましては、急なお知らせであることをお詫び申し上げ、皆さまのご理解と益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます

令和6年6月10日 学校長 大柏 秀樹

「めまい」の検査機器が 新しくなりました

令和6年4月より、当院耳鼻咽喉科外来のめまい検査に使用される眼球運動検査装置が新しくなりました。「めまい」は原因の違いによってめまいを引き起こしている疾患が異なり、めまい検査は「体の感覚器や神経経路のどこで異常が起こっているのか」を判断するため行われます。一般社団法人日本めまい平衡医学会認定**めまい相談医である当院耳鼻咽喉科 赤松医師**により、新しい機器を積極的に利用し、めまい診断に役立てていきたいと思っています。「めまい」でお困りの方は、是非当院耳鼻咽喉科をご受診下さい。

ご寄贈ありがとうございました

令和6年5月25日(土)、浦河赤十字病院を応援する会様よりプランター7個をご寄贈いただきました。プランターをご寄贈いただくのは昨年引き続き2度目で、贈呈式では浦河赤十字病院を応援する会の方と浦河赤十字看護専門学校学生によるプランターへの花の植替え作業が行われました。



また、浦河町の東町第一自治会様には、正面玄関横の救急車搬入口付近花壇の除草と花のご寄贈をいただきました。正面玄関付近はマリーゴールド等のたくさんのきれいな花で彩られています。地域の皆様からの温かいご寄贈・ご支援に心より感謝を申し上げます。



浦河赤十字看護専門学校

地域交流会 2024

日時: 6月29日(土) 10:00~15:00

場所: 浦河赤十字看護専門学校

予約・申し込み不要♪ どなたでも参加OK♪

- 赤十字の部屋 (AED 体験)
- 体験の部屋 (血圧測定・沐浴)
- 学生の部屋 (ハンドマッサージ
・進路相談など)



看護師の未来を語り、地域への感謝を込めた 「看護の日 in 浦河日赤」開催!

21世紀の高齢社会を支えていくために、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう旧厚生省により制定された「看護の日」のイベントが、令和6年5月26日(日)当院にて開催されました。当院では初の開催で、浦河赤十字病院と浦河赤十字看護専門学校が連携し、地域の方々約40名をお迎えしました。

当日は、看護師の災害活動紹介、災害拠点病院の役割解説、避難所用ガウン作り体験、新聞紙スリッパ作り、AED講習、健康相談、防災リュック展示など、盛りだくさんの内容で、参加者の皆様から大きな反響をいただきました。

「看護師の災害救護活動紹介」では、当院が出動した実際の活動内容を写真で説明し、「日高管内唯一の災害拠点病院としての役割解説」では、地域医療における重要な役割を理解していただくことができました。

また、これまで地域の方々からいただいた寄付金により購入した看護用品や救急車の寄贈についても紹介し、患者さんの毎日のケアに活かされている感謝の気持ちを伝える機会となりました。浦河赤十字看護専門学校の学生もボランティアで参加し、小学生から高校生達との交流の場となり、将来をつなぐ若い世代に看護への関心を持ってもらうことができました。

このイベントを通して地域の方々と交流し、主催した私達看護師もみなさんの笑顔で元気をいただくことができました。今後も地域医療の発展に貢献してまいります。ご協力ありがとうございました。担当 石田妙子

